

広 268⁷
足利時代 113

ついでに 矢野 194⁷
5963^P-1/3

きた 1433⁷
広 268⁷
足利時代 113

1477⁷
足利時代の別名
足利時代の別名
足利時代の別名

第九十八章

戦国時代

足利時代

室町時代中期の応仁元年（一四六七）足利

利將軍家の相続問題がきっかけとなり、足利

仁の乱（一四六七～一四七七）が起こった。

東軍細川勝元と西軍山名持豊（宗全）とが

それそれ諸大名を引き入れ、京都市街地を中心

たり対抗したのだった。京都は、戦乱の巷と

化した。として約十年間にわ

る応仁の乱の結果、京都の町の大半が多数の

文化財とともに焼失。足利將軍と幕

府の権威は低下し、幕府にようやく支えられ

ていた皇室・公家・寺社などの権門も没落し

た。

なお、応仁の乱の終りは、戦国動乱の開幕

にほかならなかった。（「広辞苑」に「応仁の

乱」）。日本史辞典に東京創元社に「応仁の乱

参照）

米

$$5,963^P - \frac{2}{3}$$

応仁の乱（一四六七〜一四七七）を契機と
 して、室町幕府の権威は失われた。
 ■そして、これより以降の約百年間、織田信
 長の天下統一（一五七三）まで、天下あがて
 の騒乱の世が続いた。
 ■この戦国時代は、
 血なまぐさい時代であ
 った。
 ■しかし、これまでの伝統と権威が否定され、
 郷村に基盤をもつ領主が
 己の支配領域を拡大してゆく活気
 に満ちた時期でもあった。
 ■農民は武士を倒し、又は反抗し、武士は主
 人を倒し、力のある者が天下を奪う、いわゆ
 る世にいう曰下剋上の時代である。
 ■すなわち、血統や門閥などではなく、実
 力のみが全てを決定することとなった。
 ■天皇は、伝統的権威を失墜して無力と
 なり、荘園制も崩壊したから、経済的にも困

云1264^P

5,963^P-3/3

百科18-45^P

前頁18^P 全て

後拍原巻云768^P
後巻云820^P (281)

三村18-45^P

こんきゅう
田舎云845^P

六筋し、単なる儀礼的存在にすぎなくなった。
・一かもその儀礼さえもどこかおろちで、
天皇の即位の礼も満足に出来ず、後拍原天
皇の即位式は踐祚後二十一年目に幕府の献金
によってかろうじて行なわれた。以後、後奈良
正親王天皇の代になると即位式・皇居の修理
など悉く有力戦国大名の援助によつて行
なはれた。状態となつた。
■貴族や僧など、荒廃した京都を捨てて地方
へくだり、戦国大名に身を寄せざる者も多く、
古代以来の支配階級は、あえなく崩壊した。
「日本史」大阪教育図書株、昭和四
十年六月一日、二〇五、六頁。 「広辞苑」
「戦国時代」等参照。
「世界大百科事典」平凡社

*

「思い返せば」の5979
道の 5979 137 実際 (1321)

273

5,964 - 1/2

このような暗黒の時代に、
真相を知る者が、誰か居たろうか。
その日の暮しにも困り、明日の身もどうな
るか分らない時に、
な^{50M}全^まく^た嘘^{うそ}のような^{うそ}口^{くち}真^ま実^{じつ}と^し称^{しょう}する^う話^わを^は語^{かた}
り^を伝^{でん}え^たと^ころ^で、^い一^{いつ}体^{たい}、^な何^{なん}に^なる^る
た^を口^{くち}戦^{せん}乱^{らん}の^よ世^よに、
察^{さつ}する^うと^ころ^で約^{やく}百^{ひゃく}年^{ねん}間^{かん}も^の長^{なが}き^にわ^たた^つて^つ続^{つづ}い
た^を口^{くち}戦^{せん}乱^{らん}の^よ世^よに、
我が国の真^ま実^{じつ}の^し歴^{れき}史^しを^を語^{かた}り^を継^つぐ^うこ^とは、^す
つ^をかり^に途^と絶^だえ^てし^まっ^たた^を
のであろうや
ともあれ
々の記憶^{きおく}から消^きえ^去つ^てし^まっ^たや
任^{にん}する^うこ^とに^なっ^たの^をあ^らう^うや
つまり、理^り想^{そう}を^を追^{つい}求^{きゅう}する^う為^{ため}
「真^ま実^{じつ}の^し歴^{れき}史^しを^を抹^ま殺^{さつ}する^う」
という難^{なん}事^じ業^{ぎょう}が、^をつ^いに^に完^{かん}成^{せい}し^たの^をあ^らう^う。
思^しい^に起^おこ^せば、^をそ^のれ^は長^{なが}い^に長^{なが}い^に苦^く難^{なん}の^う道^{みち}の^り

5,964^P-2/2

うらば
裏腹 云215

理想とはまつたく裏腹の戦国の世か、
置き忘れてきたのだらうか。
理想を何処に
難事業は成ったか、
いつはとも知れず続いていった

*